

イマドキの若者の「地元愛」調査！

「自分の地元が好き」、84.1%。

約3割が「地元は好きだけど、戻りたいとは思わない」。その理由は…？

ご当地ゆるキャラやB級グルメ、ご当地アイドルなど、ご当地モノが話題に挙がることが多い昨今。その一方で、若者の流出に頭を悩ませる地方自治体が多いのも事実だ。毎年多くの若者が進学や就職を期に上京しているが、果たして地元(=生まれ育った地)を離れて暮らす若者たちは、どれくらい郷里に愛着をもっているのだろうか。

今回、オウチーノ総研(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、首都圏で暮らす20歳~29歳の地方出身者370名に「地元に関するアンケート調査」を行った。結果、81.4%が「自分の地元が好き」と回答した。

■調査概要

有効回答 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)以外の出身で、現在首都圏に暮らす20歳~29歳の男女370名

調査方法 インターネットによるアンケート調査

調査期間 2013年6月6日(木)~6月11日(火)

詳しくはコチラ<<http://corporate.o-uccino.jp/research-o/20130620-2.html>>

1. 84.1%が「自分の地元が好き」と回答！

まず、首都圏在住で、地方出身の若者たちに「あなたは自分の地元が好きですか?」と聞いた。結果、84.1%もの人が「好き」と回答した。

「懐かしくて、ホッとするから」(女性/北海道出身/27歳)

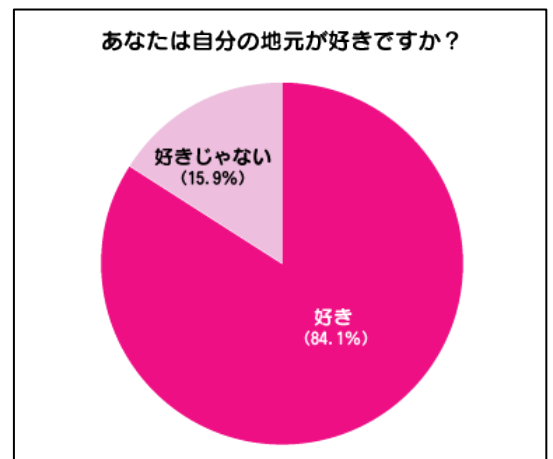
「育った場所なので、愛着があるから」(男性/福島県出身/29歳)

「自然が多くて落ち着くから。」(男性/長野県出身/28歳)

「帰省するたびに、気遣いせずに育ってきた友人と話せることがうれしい」(女性/群馬県出身/24歳)

「ゆったりした時間が流れているから」(女性/山口県出身/27歳)

といった理由が多く挙げられた。こうした地元を抱く愛着や安心感は、地元を離れてこそ芽生えた、という人も多いのではないだろうか。ご当地ゆるキャラやB級グルメ、ご当地アイドルなどのヒットは、こういった「地元愛」の顕在化なのかもしれない。



一方、「好きじゃない」と回答した人の意見としては、

「田舎過ぎて何もなくて、不便だから」(女性/茨城県出身/26歳)

「娯楽もないし、周囲の人への関心も高いので住みづらい」(女性/鹿児島県出身/28歳)

などが挙げられた。他にも、

「皆地元から離れていき、自分がいた時とは違う街になっているので親近感がない」(女性/熊本県出身/29歳)

といった回答もあり、若者の流出や街の変化によって、地元への愛着が薄れてしまうこともあるようだ。

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。■

株式会社 オウチーノ(オウチーノ総研/清水) 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-9-16

<TEL:03(5776)1746 FAX:03(5776)1747 E-MAIL:soken@o-uccino.jp>

2. 約3割が「地元は好きだけど、戻りたいとは思わない」。その理由は…？

次に、「可能か不可能かは別にして、あなたは将来、自分の地元に戻りたいと思いますか？」と質問した。その結果、59.2%が「戻りたいと思う」、40.8%が「戻りたいと思わない」と回答した。「戻りたいと思わない」と答えた40.8%のうち、27.8%は「地元が好き」と答えた人だった。

なぜ、地元が好きなのに、戻りたいとは思わないのだろうか。以下のような理由が多く挙げられた。

「馴れ合いで刺激、向上心がないから」(男性／青森県出身／26歳)

「生活が短調だから」(女性／長崎県出身／21歳)

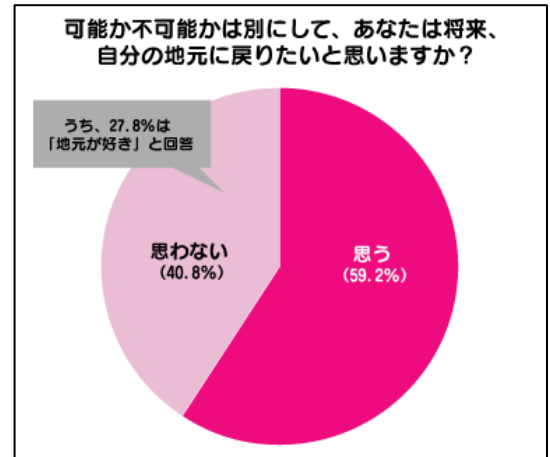
「帰っても仕事がないから」(男性／愛媛県出身／28歳)

「不便が多いから」(女性／新潟県出身／23歳)

他にも、「たまに帰るくらいが丁度いい」、「都会の方が住みやすい」、

「雪が多くて大変」といった意見も聞かれた。地元への愛着や安心感はあるが、生活のハリや刺激、便利さといった面で物足りなさを感じている人も多いようだ。

ちなみに、「実際、将来地元に戻る予定はありますか？」という質問をしてみると、「ある」と回答した人は22.7%にとどまり、77.3%が「今のところない」と回答した。突出して多かったのが、「現在の仕事の都合上」という理由。またそれと関連性のある「地元仕事がないから」という意見も、多く聞かれた。その次に多かったのが、「結婚相手の都合上」だった。



3. 若者の地元愛が最も強いエリアは「中国地方」

今回の調査をエリア別に見てみると、「自分の地元が好き」と回答した人が最も多かったのは「中国地方」で95.7%。次いで「北海道・東北地方」(91.5%)、「九州・沖縄地方」(87.2%)、「北陸・甲信越地方」(87.0%)、「東海地方」(79.5%)、「関西地方」(76.5%)、「関東地方」(75.5%)、「四国地方」(70.6%)という順番だった。

地方出身の若者たちは、地元を離れているからこそ、地元への愛着が強い。しかし現実をみると、その「地元愛」と、「自分自身の生活基盤をどこにおくか」というのは、また別問題であるようだ。